



体育ではみんな一緒に



のびっこは少人数で一人一人に寄り沿った授業を実施



のびっこでの真剣なまなざし



先生同士で子どもたちの情報を共有



のびっこルームの予定表



のびっこで見せる生き生きとした表情



通常の学級で給食を受け取る



学習室の落ち着いた環境で給食を食べる米澤さん



特集: 毛利台小学校の
インクルーシブ教育

垣根のない学校

みんなが共に学び、共に育つための学校をつくりたい。7年前に始まった毛利台小学校の取り組みが、文部科学大臣奨励賞を受賞しました。その日常に目をやると、学校だけでなく、誰もが過ごしやすい社会をつくるための芽が顔をのぞかせていました。

☎教育指導課 ☎225-2660

毛利台小学校インクルーシブ教育の仕組み

通常の学級
(全児童が共に学び合える場)

活用

戻る

みんなの教室

- 1 のびっこルーム
- 2 特別支援学級(学習室)
- 3 国際教室
- 4 こころの教室
- 相談室
- 保健室

- 学習面・生活面で支援が必要な場合や、心理面で不安がある児童などが利用。自信をつけて通常の学級に戻るための場所
- 障害のある児童が対象。担任と介助員が学校生活をサポート
- 外国につながりがあり、日本語の支援が必要な児童が利用
- 毎週2回程度相談員が訪問し、遊びや手紙の交換などで児童の様子を確認

※市立小・中学校では、全校で学習室の児童が通常の学級の一員になっている他、学校の実情に合わせたみんなの教室を設けている

【インクルーシブ教育とは】
全ての子どもが同じ場で共に学び、共に育つことを通して、互いを理解し、尊重し合う共生社会の実現を目指す教育。

【毛利台小学校では】
全ての児童が「通常の学級」の一員。障害がある、外国につながりがある、人間関係づくりに課題があるなどの実情に合わせて、部分的に「みんなの教室」を利用し、通常の学級に戻る。みんなの教室を使った一人一人を大切に教育が評価され、全国の学校を対象とした第37回教育奨励賞で文部科学大臣奨励賞を受賞した。

2時間目の終わりを知らせるチャイムが鳴ると、一斉に子どもたちが校庭に駆け出してきます。15分間の業間休み。サッカーや鬼ごっこ、ジャンケルジムにバスケットボール。校庭のあちこちから笑い声が上がり、澄んだ空に広がっていきます。

した。特徴的なのは、みんなの教室の中に設けた「のびっこルーム(以下、のびっこ)」です。のびっこは、学習に不安のある児童が少人数で学び、自信を取り戻して通常の学級に戻るための場所です。校内の教育相談コーディネーターを務める榎木健太教諭は「初めは勉強のできない子が行く場所と捉える保護者や児童もいたけれど、今では『のびっこ行ってくるね』『行ってらっしゃい』と、気軽に行き来する場所になっている」と目を細めます。コロナ禍では、感染などで長く欠席した児童が休んでいた期間の学習をのびっこで補うなど、利用の幅も広がっています。子どもがのびっこを利用する小倉憲一さんは「学校にのびっこのような取り組みがあって、ありがたいと感じている。これからも学ぶ意欲を持ち続けてほしい」と話します。のびっこの運営に欠かせないのが、教員間での情報共有です。

「のびっこ」に行ってくるね

毛利台でのインクルーシブ教育は2016年、県からモデル校に指定されたことをきっかけに始まりました。3年間で、「仕組みづくり」「みんなの教室と通常学級の連携」「ユニバーサルデザイン化」を重点に取り組み、少しずつ定着させていきました。

毛利台では、みんなの教室を使ったインクルーシブ教育の開始当初から、全職員で取り組んできました。教員が変わる4月には、毛利台のインクルーシブ教育の仕組みを理解する機会を設け、「みんなが通常の学級にいる」という意識を全員で共有。みんなの教室の担当教諭と担任、教育相談コーディネーターらが、児童一人一人の様子を把握し、通常の学級で過ごすために必要なサポートを考え、工夫しています。加えて、みんなの教室での手法を通常の学級に生かし、全ての児童が学習・生活しやすい学級づくりに取り組んでいます。

毛利台では、特別支援学級(以下、学習室)を利用する児童も、通常の学級の一員です。体や心の状態に合わせて、通常の学級と学習室を行き来しています。

米澤幸大さん(2年)も学習室を利用する一人。体育や図工、音楽、学級活動などは、学習室の担任などのサポートを受けながら、通常の学級でみんなと一緒に学んでいます。友達と関わるのが好きだという幸大さん。一方で、コミュニケーションの取り方がうまくいかずストレスを感じることも。「体を動かすことや、音楽に合わせて踊ることが好き。おしゃべり好きという自分らしさをまだ出せていない」と話す母親の絵美さん。「学校でいろいろな人と関わる中で、うまくいかないこともあるけれど、みんなに幸大のことを知ってもらいたいし、幸大にもみんなのことを知ってほしい」と願っています。

学習室をはじめ、子どもたちの学校生活は、教員だけでなく多くの人に支えられています。

「毛利台で当たり前になっていきます。みんなですべて変えていく。みんなですべて変えていく。みんなですべて変えていく。」と話します。



のびっこにはみんなが自由に入ります

「キーン、コーン、カーン、コーン」。始業を知らせるチャイムが雲一つない空に響き渡ると、子どもたちははくはくとした教室を伸び伸びと行き交います。今日も、垣根のない学校の日が始まりました。

学校で子どもたちを支える方を募集

▶特別支援教育介助員 (特別に支援が必要な児童・生徒の介助)

勤務日時 週1~3日程度
8時30分~15時45分(中学校は16時45分)
時給 1075円(看護師は1565円)

▶日本語指導協力者

勤務時間 週3日以内
1回2時間以内
時給 3000円
☎教育指導課 ☎225-2660

▶学力ステップアップ支援員 (教員の学習指導補助)

勤務時間 週2~4日程度
1日5時間
時給 1075円
☎教職員課 ☎225-2602



子どもだけでなく 地域の未来のために 変えていく

国際協力機構(JICA)横浜センター
技術顧問(多文化共生)
滝坂 信一さん

毛利台小学校が県の「みんなの教室」モデル校になった2016年から、3年間一緒に取り組みました。こうした取り組みは、仕組みをつくって完成というものではありません。子どもたち、保護者、先生、地域の皆さんが、一緒に学ぶ仕組みを持った学校が大切だと実感し、継続して取り組み、文化として創っていくものです。特に、子どもたちの声を聞いていくことを欠かすことができません。「インクルーシブ」は、「例外なく一人一人にとって暮らしやすい場所」をつくる取り組みです。嫌なことや苦手なこと、好きなことや得意なこと、それを伝え合い、分かち合い、一緒に工夫合っていくことが、誰にとっても安心して過ごせる学校を創ることにつながるのだと思います。子どもたちがそのような環境で学び育つことの向こうに、厚木という地域が「インクルーシブ」になっていくことをイメージできると思います。地域の皆で学校を創っていくことは、住みやすい地域づくりそのものでもあります。



市HPはこちら